



管内の百名山「甲武信岳」



甲武信岳（こぶしだけ、2,475m）は、埼玉県の西部、奥秩父山塊の中央部に位置し、埼玉県・山梨県・長野県の3県の境にあります。甲武信岳の名前は甲州（山梨県）、武州（埼玉県）、信州（長野県）の3国にまたがる山の頭文字からとされる説や、山容が拳（こぶし）のように見えることから名付けられた、という説もあり、甲武信ヶ岳（こぶしがたけ）ともいわれています。

登山ルートは、埼玉・山梨・長野県側にそれぞれありますが、埼玉県側はアプローチが長く上級者向け、山梨県側は中級者向け、長野県側は日帰りもできる初級者向けといわれています。「日本百名山」に指定されたこともあり、登山者は多く、山頂からはハケ岳、中央アルプス、富士山などが一望できます。

この山の頂上に降った雨水は、埼玉県側から東京湾へ注ぐ荒川、山梨県側から駿河湾へ注ぐ笛吹川（富士川）、長野県側から日本海へ注ぐ千曲川（信濃川）の水源となっています。



また、甲武信岳は、秩父多摩甲斐国立公園の特別地域、秩父山地緑の回廊、秩父山地森林生物遺産資源保存林に指定され、シラベ（左写真）、コメツガ、モミ等の針葉樹、カンバ、カエデ類等の広葉樹によって多様な森林が構成され、貴重な野生動植物が生息・生育し、豊富な森林生態系が保たれています。

近年、甲武信岳を含む秩父山地緑の回廊では、シカによる立木の食害が拡大し、その対策に苦慮しています。埼玉森林管理事務所は、生物多様性保全の面からも地元自治体やNPO法人等と連携し、被害対策に取り組んで行くこととしています。

（埼玉森林管理事務所 調整官）

三宝山から望む甲武信岳（左下）、山頂標柱（右）

